

(2) 今年も昨年に引き続き、教科ごとに先生が変わる教科担任制でした。

(2) 今年も昨年に引き続き、教科ごとに先生が変わる教科担任制でした。

- 教科担任制は
1. よい取り組みだった。
  2. よい取り組みとは思えなかった。
  - ③. よいか悪いか、どちらとも言えない。

- 教科担任制は
- ①. よい取り組みだった。
  2. よい取り組みとは思えなかった。
  3. よいか悪いか、どちらとも言えない。

わけ

教科担任制のメリットは教科毎にその科目においてもっともよい先生におしえてもらえる。デメリットとしてあげられるのは4年の時と比べて先生一人に担任の授業が減り担任との交流の場が減ることだ。これはよくも悪くも言える。

わけ

それぞれの先生と関わり合いながらすることで、どの先生とも仲が深まるきっかけがあっていいと思う。また、先生の得意な教科をすることにより、私たちもくわしく知れたことで分がやりやすくなるからいい取り組みだと思う。

(2) 今年も昨年に引き続き、教科ごとに先生が変わる教科担任制でした。

- 教科担任制は
1. よい取り組みだった。
  2. よい取り組みとは思えなかった。
  - ③. よいか悪いか、どちらとも言えない。

6年生のアンケートより

# 七つ星

校訓 「志高く」



わけ

よいと思うのは色々な先生と関われるからで悪いと思うのは少しやり方がちがうからごちゃごちゃになり、この先生でなくても他の先生だったらおこなえるみたいなのがやだと思ふから。

## 2年目の教科担任制

校長 前田 倍成

### R 3年度データ

教科担任制について	5年生(回答総数 79)		6年生(回答総数 109)	
	人数	割合	人数	割合
1 よい取組だった	54	68.4%	80	73.4%
2 よい取組とは思えなかった	6	7.6%	2	1.8%
3 よいか悪いか、どちらとも言えない	19	24%	27	24.8%

### R 2年度データ

教科担任制について	5年生(回答総数108)		6年生(回答総数94)	
	人数	割合	人数	割合
1 よい取組だった	85	78.7%	59	62.8%
2 よい取組とは思えなかった	2	1.9%	7	7.4%
3 よいか悪いか、どちらとも言えない	21	19.4%	28	29.8%

5・6年生の「教科担任制」についての意見(学習アンケート結果より集計)

今年度も「教科担任制」への子どもたちの意識を調査しました。上記集計結果からは、昨年度に引き続き、子どもたちが教科担任制を概ね肯定的に受け止めていることがわかりました。

5年生の時から概ね肯定的だった今の6年生ですが、今年の数値を5年生時と比較すると、大きな変化はないものの、3「どちらとも言えない」割合が5%強増えています。

さらに昨年度の6年生の数値と比較すると、1「よい」と回答した児童の割合が10%強増えており、今の6年生が教科担任制に概ね肯定的な傾向には変わりがないと考えます。

次に、今年度初めて教科担任制となった5年生。昨年度の5年生（現6年生）と比較すると、1「よい」と回答した割合が10%強少なく、2「よい取組とは思えなかった」と回答した割合が3倍強となっています。昨年度同学年比では下回るものの、同じように昨年初めて教科担任制となった6年生（現中学校1年生）と比較すると、現5年生の方に若干肯定感が高い傾向が表れています。こうしたデータを踏まえ、全体として約7割が1「よい」と回答していることから、現5年生も、教科担任制をまずまず肯定的に捉えていると考えることができます。

以下に回答の主な理由（記述式）を紹介します。

### 【1「よい」と回答した主な理由】

- 「教科担任制でその先生の個性が出ていて授業が楽しいから」
- 「いろいろな先生とふれ合え、集中できたから」「いろんな先生とコミュニケーションがとれるから」
- 「専門の先生が教えてくれるから、分からないことも、他の先生より具体的に教えてくれる」
- 「先生や教科によって教え方が変わるけど、とても分かりやすく教えてくれるから」
- 「手を挙げられるようになって」「発言できるようになった」
- 「先生がもっている知恵をたくさん教えてもらえる」「いろいろな視点から授業ができて楽しい」
- 「中学校に備えているのだなあと思うから」
- 「それぞれの先生のペースやスピードがあるけれど、なれておけば中学校で先生が替わった時にも授業に集中できるから」
- 「一人の先生がある教科だけというのは、先生側も子ども側もリラックスしてできると思う」
- 「先生も全部の教科を担当するのは難しいかも知れないし私達にとっては色々な先生と授業するのが楽しみという良さがある」

多かったのは、今年もやはり、先生との関わり・交流、授業内容に関することでした。また、昨年同様に進学を見据えた意見や、先生の働き方に気遣った(?)意見もありました。

### 【2「よいとは思えない」と回答した主な理由】

- ▲「自分はどの教科も同じ先生がいい」
- ▲「同じ先生でないので違和感があった」
- ▲「教え方がちがうから言葉が分からなくなる」
- ▲「先生によって授業での態度を変えることがあるから」

5年生では、4年生まで受けてきた、学級担任がほとんどの授業をする形がよかったという意見がありました。

「先生によって態度を変える」ことについては、導入1年目から把握している課題です。これに対し、「前は先生によって態度を変えていたけど、今はどの授業でもしっかりとクラスとしてやっている」などの力強い意見が複数ありました。

### 【3「どちらとも言えない」と回答した主な理由】

- 「いろんな先生とたくさん関わる機会があったけど、担任の先生との関わりの方が減った」
- 「担任の先生とのコミュニケーションがとりにくい」
- 「教科で（先生が）変わっても、さほど差が分からない」
- 「この先生ではよくても、あの先生にはおこられるみたいのがいやだと思った」

「この先生ではよくても、あの先生にはおこられるみたいのがいやだと思った」という意見について、これまで担当者間だけでなく学校全体としても指導の方針やレベルを揃えることを共通理解し大事にしてきたのですが、今後に向け真摯に受け止めなくてはならないことと考えます。

一方、担当者の自己評価では、効果として、担当教科数が減ることにより教材研究の教科が絞られ、時間確保ができるなどの業務改善につながることで、また、複数の目で児童を見取り、学習面、生活面での学級間格差を小さくできることなど、昨年と同様の評価がありました。

課題として、複数の目できめ細かく子どもたちを見取っていくには、日常的に担当者間での密な情報交換・共有が必要であること、子どもたちの学力についても担当外の教科の状況も随時把握しておく必要があることが挙げられました。さらに昨年同様、指導者自身に専門性を生かすだけのより高い知識、技術が求められることも挙げられていました。